

政策番号	23	政策分野	建築物
------	----	------	-----

**基本方針** 建築物にかかわる災害や事故から市民を守り、だれもが日々安心して、いきいきとくらすことができ、充実した社会活動を展開できるひとにやさしいまちの実現をめざし、市民と行政の役割分担と協働の下で、新築建築物及び既存建築物の両方について、安全で、環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物にしていく。また、建築物の先導的な役割を果たすべき公共建築物においても、適切で計画的な維持管理や有効活用を図る。

担当局	都市計画局
-----	-------

共管局	
-----	--

**政策の評価**

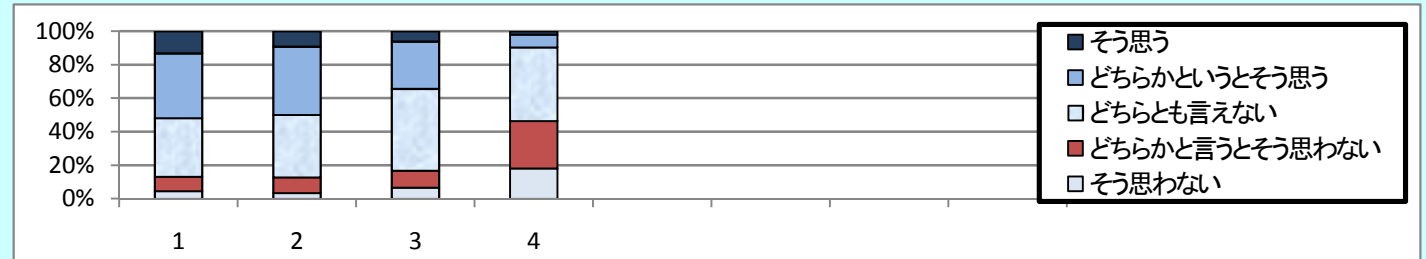
**1 客観指標評価**

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年度	年度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 検査済証の交付率(%)	90.3	100	-	-	78.5	90.4	100	90.4%	b
2 定期的に安全点検された既存建築物件数(件)	317	10,000	-	-	158	317	250	126.8%	a
3 CASBEE京都(※)高評価件数(件)	-	300	-	-	-	-	-	-	-
4 バリアフリー優良建築物の件数(件)	416	500	-	-	376	416	500	83.2%	a
5 特定建築物の耐震化率(%)	84.7	-	-	-	78.8	84.7	80	105.9%	a
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>客観指標総合評価</b>					<b>a</b>				

※京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムとして新たに定めた基準

**2-1 市民生活実感評価**

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	建物を新築するときは、建築ルールが守られている。	-	-	b
2	バリアフリー化された建物が増えている。	-	-	b
3	地震や火災に強い建物が増えている。	-	-	c
4	身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくならないよう改善されている。	-	-	d
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
<b>市民生活実感調査総合評価</b>		<b>c</b>		



## 2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	26	5.4%

## 3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている	年度	-
<p><b>【客観指標】</b>・新築建築物等の安全性を担保する検査済証の交付率は、法定の義務であるため100%を目標としている。啓発や指導等を経て前年度から大幅に改善した結果、b評価となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期点検された既存建築物件数は、報告書の督促や査察に努めた結果、大幅に増加し、a評価となった。</li> <li>・CASBEE京都高評価件数は、平成23年度から制度を運用するため、次回から評価を行う。</li> <li>・バリアフリー優良建築物の件数は、顕彰制度の創設等を経て堅調に増加し、a評価となった。</li> <li>・特定建築物の耐震化率は、耐震診断助成等を経て目標以上に上昇し、a評価となった。</li> </ul>		年度	-
<p><b>【市民の実感】</b>・建築ルールの遵守やバリアフリー化については、必要性の浸透が見られ、やや肯定的な回答が多いが、耐震性・防火性については、性質上外観から分かりにくく、「どちらとも言えない」とする回答が多い。防災上の細街路の改善については、やや否定的な回答が多く、歴史都市特有の細街路の多さを反映している。</p>		年度	-
<p><b>【総括】</b>・客観指標が市民の実感を上回る結果となった。建築物の安全性確保やバリアフリー化が一定進展している状況はうかがわれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</li> </ul>			

## 今後の方向性の検討

### <この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
2301	安全な新築建築物の供給	-	-	B	243
2302	既存建築物の安全性の向上	-	-	B	245
2303	細街路対策による災害に強いまちづくり	-	-	C	247
2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導	-	-	A	249
2305	公共建築物の先導的整備	-	-	B	251

### <今後の方向性>

・平成22年3月に策定した「京都市建築物安心安全実施計画」に基づき、建築物における災害や事故から市民のいのちと暮らしを守り、被害を減少させることとしている。

・平成22年6月から細街路・狭あい道路の整備範囲を従来のモデル地区から市内全域に拡大し、今後も取組を進めることとしている。

・平成23年度から、京都らしい環境に配慮した建築物の評価基準「CASBEE京都」の運用を開始し、環境・景観の両面から「木の文化」を大切にするまちづくりを進めることとしている。

・平成16年10月から施行した「京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例」に基づく義務基準を加重した努力基準を満たす建築物に対する「みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度」を平成23年2月に創設し、今後もバリアフリー化を促進することとしている。



政策名	23	建築物										
指標名	CASBEE京都（※）高評価件数（件）											
担当部室	建築指導部	連絡先 222-3620										
<b>1 指標の説明</b>												
※京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムとして新たに定めた基準（CASBEE京都）により評価されたものの中で、高評価のもの件数												
<b>2 指標の意味</b>		<b>3 算出方法・出典等</b>										
環境に配慮された質の高い建築物の増加状況を示す指標		出典：京都市地球温暖化対策条例（事業担当課調べ）										
<b>4 数値</b>												
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 -	平成32年度目標値 300	根拠 現状のCASBEE全国版での評価に基づき、高評価に誘導する対象物を精査して設定。									
	前回数値 年度	最新数値 22年度	推移	単年度目標値 数値	根拠	達成度						
数値	-	-		-		-						
	全国順位	中長期目標 数値 目標年次 達成度			根拠							
数値												
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>		<b>7 評価結果</b>								
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については、景気動向等による建築物の着工件数の影響が大きいことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>					23	-	-	-
		23										
-	-	-										
備考 CASBEE京都は平成23年度から運用を開始するため、平成23年度以降に新築等をされる建築物を対象とする。よって、評価は次年度から行う。												

指標名	バリアフリー優良建築物の件数（件）											
担当部室	建築指導部	連絡先 222-3616										
<b>1 指標の説明</b>												
バリアフリー化された建築物（施設）の件数												
<b>2 指標の意味</b>		<b>3 算出方法・出典等</b>										
「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標		算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数 出典：事業担当課調べ										
<b>4 数値</b>												
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 416	平成32年度目標値 500	根拠 過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計									
	前回数値 21年度	最新数値 22年度	推移	単年度目標値 数値	根拠	達成度						
数値	376	416	40増	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物を拡大した後の件数を推計	83.2%						
	全国順位	中長期目標 数値 目標年次 達成度			根拠							
数値												
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>		<b>7 評価結果</b>								
最新数値と前回数値との比較 a：10件以上の増加 b：4件～9件の増加 c：3件の減少～3件の増加 d：4件～9件の減少 e：10件以上の減少		これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移をもとに、評価基準を設定。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>a</td> </tr> </table>					23	-	-	a
		23										
-	-	a										
備考 20年度 349件 21年度 376件 22年度 416件 平均 380件												

政策名	23	建築物
-----	----	-----

指標名	特定建築物の耐震化率（％）
-----	---------------

担当部室	建築指導部	連絡先	222-3613
------	-------	-----	----------

**1 指標の説明**

多数の者が利用する建築物等（市有建築物含む）のうち耐震性能を有するものの割合

**2 指標の意味**

地震に対する安全が確保された建築物が増えていることを示す指標

**3 算出方法・出典等**

算出方法：特定建築物のうち耐震性能を有するものの数÷特定建築物の全数×100  
出典：事業担当課調べ

**4 数値**

10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 84.7	平成32年度目標値 -	根拠
----------------------	-------------------	----------------	----

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	18年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	78.8	84.7	5.9ポイント増	80	中長期目標の達成（耐震化率90％）のために、今年度達成すべき目標値	105.9%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値		90%	27年度	

根拠  
耐震改修促進法に基づく国の基本方針  
京都市建築物耐震改修促進計画

備考	
----	--

**5 評価基準**

最新数値の目標値に対する達成度が  
a:100%以上  
b:90%以上100%未満  
c:80%以上90%未満  
d:70%以上80%未満  
e:70%未満

**6 基準説明**

目標値以上であれば政策目的の達成として、100%以上をa、以下10%刻みで基準を設定した。

**7 評価結果**

		23
-	-	a